

地方創生 SDGs 金融調査・研究会(第 31 回)の開催結果について (概要)

○日時:令和 7 年 1 月 22 日 13:30-15:30

○場所:ハイブリッド(内閣府・オンライン)

○出席委員:村上座長、竹ヶ原座長代理、大久保(尊)委員、大久保(光)委員、大橋委員、
金井委員、萱津委員、重藤委員、千葉委員、長谷川委員

○議事総括:

① 先導的事例の調査・研究(大分県)

- ・ 大分県信用組合・大分県より、健康に関する資金循環システムについての説明
- ・ 委員からの質問や意見は次のとおり
 - 一般的に県民の健康増進は行政が取り組むような課題であると認識しているが、なぜ大分県信用組合がこの施策に取り組んだのか
 - 健康をテーマとしたビジネスモデルについて、包括連携協定を結んだ段階でこれらのモデルは構想されていたか
 - 健康定期では金利を 0.15% 上乘せするということであり、収益の面では逼迫することも想定されるが、県や市町村からの支援はあったか
 - 健康寿命の延伸という形で結果を出しているが、いわゆるインパクトについて、健康寿命を延ばした先のことは何か考えているか
 - 大分県はどのような支援を行っていたのか

② 先導的事例の調査・研究(北九州市)

- ・ 北九州市・三井住友信託銀行より、北九州市サステナブル経営認証制度についての説明があった
- ・ 委員からの質問や意見は次のとおり
 - 宣言・登録・認証制度の中でも先進的な取組であると考えている
 - 国や自治体では報告義務を課している補助制度が数多くあると考えている。その報告内容を活用し、実態と相違がないことを証明できれば、認証制度へ金融機関が介入しやすくなるのではないかと
 - 認証要件や活用方法を見ると、難易度が高いように想定されるが、認証制度のターゲットはどのように考えているか
 - 認証制度の枠組みの中で中小企業やスタートアップを育て、小規模の地域金融機関が参画しやすいようなフレームワークを作ることができればよいのではないかと

- 金融機関からすると、中小企業に PIF(ポジティブ・インパクト・ファイナンス)や SLL(サステナビリティ・リンク・ローン)を使ってもらおうとしても、第三者認証を取るのに大幅なコストがかかる。そのため、認証制度の中で設定した KPI については、個別にエビデンスを取らずとも、第三者によって認証されているということであれば、地域金融機関も介入しやすく、使いやすい制度になるのではないか
- 中小企業にとってインパクトの創出に取り組むことは難易度が高いと想定されるため、短期的な目標として達成すべき KPI と長期的に創出したいインパクトのバランスを考えながら取り組んでほしい
- 中小企業に対しては、SX(サステナビリティトランスフォーメーション)に取り組む意識付けを行うことが重要であると考えているが、対応していることはあるか